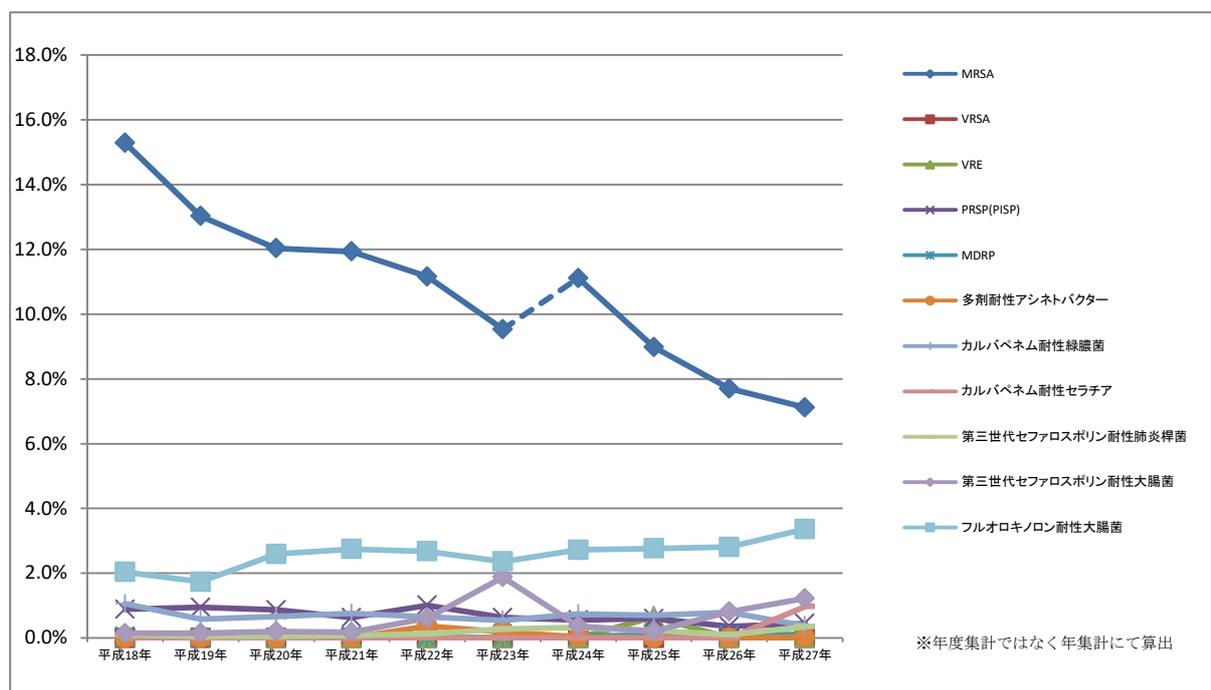


20.耐性菌分離率



抗菌薬の血中濃度測定の実施率の追跡同様、耐性菌の検出率を追跡する事は、抗菌薬適正使用の重要な臨床指標の一つとなる。平成 24 年 1 月より、厚生労働省院内感染対策サーベイランス事業（JANIS）の検査部門への参加を開始した。これに伴い平成 24 年より、JANIS から還元された結果を公表していくこととした。

従来より、多く発生していた MRSA については減少傾向にあり、ICT を中心とした抗菌薬の適正使用に関する指導や感染対策が周知されてきているためと考えられる。しかしフルオロキノロン耐性大腸菌に関して分離件数は増えてきている。今後も ICT を中心とし、抗菌薬の使い方から感染患者発生時の対応まで含め、適切な感染管理を行うことが必要である。

*算出式：(対象菌の分離患者数) / (検体提出患者数) × 100

JANIS の算出式と同様にするため、対象菌の分離患者数のカウント方法を変更した。平成 23 年以前は同一患者で異なる病棟から検体が提出された場合は、複数患者としてカウントしていたが、平成 24 年以降は 1 患者としてカウントすることとした。

データ提供：医療の質・安全対策部 感染対策室